

加賀前田家の城に残る五芒星の刻印

塩谷忠士

一、はじめに

平成二十一年度から富山城址公園では「富山城石垣ツアー」が開催されています。私はその年の秋に参加したとき、郷土歴史資料館として建てられた模擬天守の土台と なっている石垣に、星形の刻印があることを初めて知りました。また、昨年（平成二十二年）四月の河北門完成式典のとき、河北門のまわりの石垣をあらためてじっくり見る機会を得ましたが、そこで富山城と同じ星形の刻印が残る石を見つけ、両城に共通点はあるのか、その意味について調べてみました。

二、五芒星（ごぼうせい）とは

星形の刻印は「五芒星」(図一)と言われるもので、陰陽道ではあらゆる魔除けの呪符として重宝されているものです。星の五つの先は、陰陽道の基本概念となった陰陽五行説、木・火・土・金・水の五つの元素の働きの相克を表しています。

この星型は、過去の文献などでは「清明判」（清明印ともいわれる。図二）と呼ばれることもありますが、家紋「清明桔梗」に使用される星形は、正確には交わる線の上下がはつきりしています。平安時代に活躍した陰陽師、安倍清明が使用したことから、星形をそう呼ぶ人も多いようですが、魔除けとしての星型はそれ以前から存在していたようです。

陰陽道では、北東（艮^ニうしとら：丑と寅の間）の方位を鬼門（きもん）といい、鬼が出入りする方角であるとして、万事に忌むべき方角としていています。鬼門とは反対の南西（坤、ひつじさる）の方位は裏鬼門（うらきもん）といい、いずれの方角も忌み嫌われています。鬼門は、古代中国の書物『山海経』にある物語が元となっており、中国から伝来した考え方であるという説が有力ですが、北東方位は現在、日本のみ（沖縄を除く）で忌み嫌われている方位観であって、中国風水では土地や住宅の北東方位を恐れてはいないことから、日本で独自に発展した方位観であるようです。

過去の都市計画において、平安京では大内裏から鬼門の方位に比叡山延暦寺を、裏鬼門の方位に石清水八幡宮を置いたといわれ、また江戸でも江戸城から鬼門の方位に寛永寺を、裏鬼門の方位に増上寺を置いたという説があります。

一方、金沢の都市計画においても、二代藩主利長が、金沢城の北東方位である地に父利家の霊を祀って「卯辰八幡宮」（現、宇多須神社）を建立したことはよく知られているところだ。

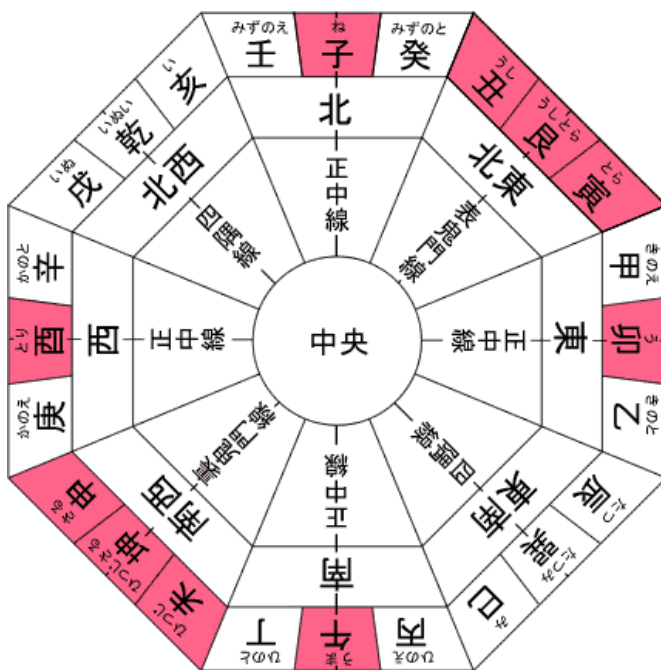
図二、清明判



図一、五芒星



図三、方位盤



三、金沢城に残る五芒星の刻印

金沢城の五芒星の刻印は、河北門北東石垣の隅石の北面と西面に二つ、いもり坂に二つ見ることが見ることできます。過去の石垣刻印調査によると、河北門は慶長十四年（一六〇九）、いもり坂は元和三年（一六一七）、ともに利長時代に積まれたものです。

河北門北東石垣の刻印（図五）は、本丸からではなく、政務の中心であった二の丸の御殿からみて北東方位（丑寅：鬼門の方向）にあたります。また、いもり坂石垣の刻印（図六）は、二の丸御殿からみて南西方位（未申：裏鬼門の方向）にあたります。

方角としては真北東（図四）ではなく、おおむね北東、南西方位（図四）と言えます。

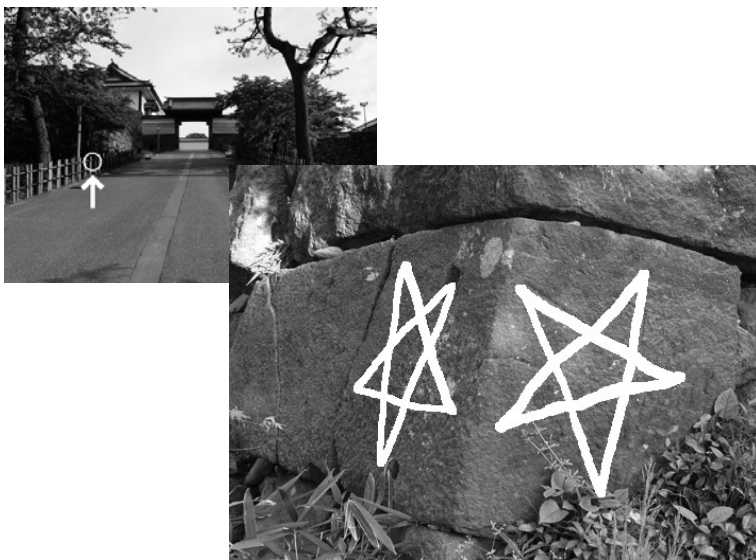
図四、金沢城の五芒星の刻印の方位



井上毅夫『金沢城址の発掘』金沢大学金沢城学術調査委員会1969より一節加筆

「石川県中世城館跡調査報告書」から抜粋したものに加筆

図五、河北門の五芒星



図六、いもり坂の五芒星

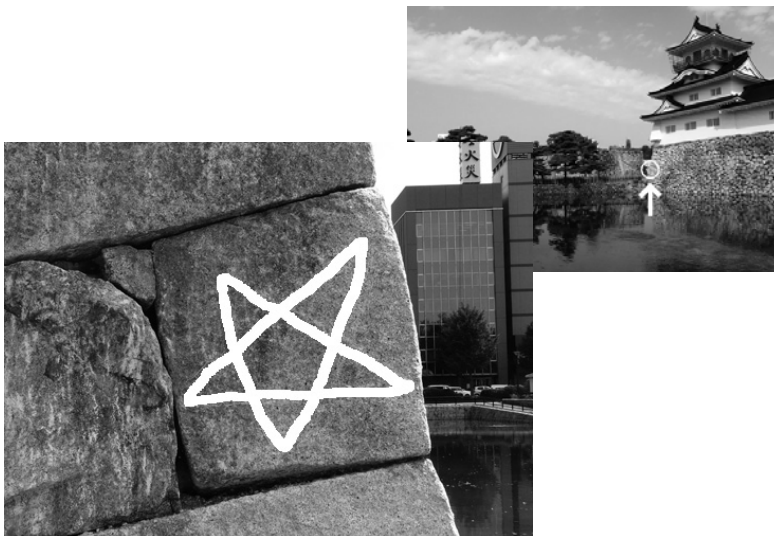


図七、富山城の五芒星の刻印の方位



「富山県中世城館遺跡総合報告書」から抜粋したものに加筆

図八、本丸鉄門東石垣の五芒星



四、富山城に残る五芒星の刻印

富山城の五芒星の刻印は、本丸鉄門東石垣（図八）の中段の角石西面（通路側）に見ることができ、「金沢穴生」の金沢城石垣編年に照らし合わせると寛文年間頃の特徴とされます。寛文年間には、富山藩初代藩主前田利次が、幕府の許可を得て富山城の改修を行なった時期にあたります。

ほかに、本丸鉄門西石垣の堀角の南面に二つ残っているようですが、水堀に面していて水没しているのか確認できませんでした。本丸鉄門東石垣の刻印のある石はここから石垣修復時に移動したのではないかとも言われています。

本丸鉄門東石垣の刻印は、本丸内の藩主御殿中央からみて、おおよそ南西方位（未申：裏鬼門の方向。図七）となります。利次は、五芒星を本丸の南西隅に配置し、「裏鬼門を守る」という特別な役目を持たせたと考えられています。

一方、鬼門である北東方位は、搦手石垣の北東隅（図七）にあたりますが、ここは何度も石垣が崩れ、幕末にはとうとう崩れたまま放置されてしまったようであり、ここに五芒星があったのかどうか現在わかっていません。

五、おわりに

今回、富山城をきっかけとして金沢城の石垣刻印のひとつに焦点を当て、調査を行いました。他にも加賀前田領内では、三代藩主利常が小松城の鬼門を封じるために小

松天満宮を建立したと伝わっており、前田家の築城に陰陽道が影響を与えていたことは疑いがないと思います。小松天満宮の役割は、金沢城における卯辰八幡宮と同じといえ、利常が兄利長の教えに同調して、小松城にも五芒星の刻印をつけたのではないかと想像は膨らみます。しかし、北東方位も南西方位も破却されて石垣のなくなった現在では、それを確認できないのが非常に残念です。

金沢城では二の丸御殿、富山城では本丸御殿、ともに政務の中心となった建物から見て、城内の石垣に五芒星を置いた加賀前田家の築城思想にはとても興味を惹かれます。都市計画としてではなく、城内に刻印で鬼門封じをした例は、他地域ではほとんど聞いたことがありませんので、いずれ深く掘り下げてみたいと思います。

参考資料

- 「金澤城石垣刻印調査報告書」 昭和五十二年 田端宝作・著
- 「越中460年を行く 富山城探訪」 平成二十二年 北日本新聞社編集部・編
- 「富山県中世城館遺跡総合報告書」 平成十八年 富山県埋蔵文化財センター・編
- 「石川県中世城館跡調査報告書」 平成十四年 石川県教育委員会・編
- 「富山市埋蔵文化財センター 富山城研究コーナー」

<http://homepage2.nifty.com/kitadai/toyamajyo/top/top.htm>